

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901188		
法人名	株式会社 エイ・シー・エス		
事業所名	グループホーム 花みず木 (1階・2階)		
所在地	〒812-0857 福岡県福岡市博多区西月隈3丁目3番54号 Tel 092-432-5511		
自己評価作成日	令和04年03月07日	評価結果確定日	令和04年04月08日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和04年03月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花みず木の理念である快適な介護をサービスすることを基本として、温かい家庭的な生活を提供している。都市高速道路や高速道路へのアクセスが良く、県外への外出を頻回にしていた。コロナ禍のため、郊外レクリエーション活動は制限されているが、毎日のレクリエーションは実施しており、同敷地内の他の2施設と交流している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「花みず木」は、福岡市博多区の利便性の良い都市部に20年前に開設した、住宅型・介護付き有料老人ホーム、ヘルパーステーション併設で定員18名のグループホームである。提携医による定期的な訪問診療と医療機関の看護師、併設施設の看護師、介護職員の連携で24時間安心の医療体制が整い、看取りも行っている。法人理念「快適な介護を提供する」に基づき年度毎に基本方針を掲げ、職員も毎年目標を立て半年毎に自己評価、施設長との面談で振り返りを行っている。長く勤める職員を中心に子育て世代も働きやすい環境を整え、助け合える関係の中、職員は定着している。コロナ禍で利用者に会えない今だからこそ、家族対応に心を配り、電話での小まめな報告と、写真をたくさん載せた個別の「花だより」で利用者の笑顔を届け、大変喜ばれている。「利用者にとにかく喜んでもらう」を合言葉に、手作りの食事、週3回の入浴、毎日のレク、外出レクの充実を図り、利用者や家族の幸せのため努力を続けている、グループホーム「花みず木」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ACSの基本理念と新年度の基本方針は掲示して常時確認できるようにしている。職員も前年度の目標の評価と反省を行い、新年度の目標を立てている。半年後に自己評価を行っている。	法人理念「快適な介護を提供する」を掲げ、年度の基本方針を設定し、それに基づき職員は個人目標を立て半年毎の自己評価、施設長との個人面談で振り返りを行っている。新人職員に対しては、特に施設長自ら声掛けし、理念の周知、共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、町内の行事や総会には参加できなかった。町内清掃は毎月参加が出来ていた。地域運営推進会議は開催出来なかったが、書面会議という形式で継続できている。	コロナ対策以前は、町内の活動や行事に参加したり、併設の施設内でふれあいカフェを年4回開催する等、地域との交流が活発に行われていた。毎月の町内清掃には参加して挨拶を交わす等、交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、直接交流は出来なかったが、書面会議において当事業所の認知症への実践や取り組みは理解してもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面でのやり取りだが、励ましや真摯な意見をいただいております、サービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、コロナ禍のため書面で、「事故報告やヒヤリハットについて」「消防訓練・災害訓練について」等、議題に沿った資料を送付して、委員からの意見や感想を収集している。出された意見はホーム運営や業務改善に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域運営推進会議の議事録の報告を行っている。生活保護の入所者がおられるので担当の方への連絡は随時している。	コロナ対策以前は、運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの状況を伝え、アドバイスや情報提供を受けていた。事故報告や疑問点、困難事例の相談を行う等、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回幹部会議にて身体拘束の取り組みに対する評価を行っている。内部研修にて知識を深めて拘束をしないケアの実践が出来る様に取り組んでいる。	幹部会議を3ヶ月毎に開催し、身体拘束について確認を行っている。内部研修の中で、身体拘束が利用者にも及ぼす弊害について職員間で話し合い、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、言葉遣いや対応に注意して、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の研修を受けており、虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて、職員に理解してもらっている。日常生活自立支援事業に関しては、外部研修に参加したいと思っている。	内部研修で、日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を設けている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には、利用者や家族に内容や申請方法を説明し、制度活用に取り組んでいる。以前、制度を活用していた利用者がいたため、職員は実務を通して制度への理解を深めることが出来ている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に家族にはわかりやすく説明をしているが、理解されていないことがあるので、面会時や電話でのご意見や質問には丁寧に説明して、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の方々が意見や要望を言われることが多いので、ファミリーノートを作成して、上司へ報告し、他の職員も情報の共有をしている。家族の方が話やすい状況を提供している。	コロナ禍で面会が制限されている為、電話や差し入れ等で来訪された際に話し合うようにしている。毎月、「花だより」を家族に送付して利用者の様子を伝え、喜ばれている。家族から出される意見や要望、心配な事等を聴き取り、ファミリーノートに記録して職員間で共有し、介護サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや日々の業務の会話の中で職員の要望や意見を聞き、幹部会議にて話し合っている。	毎月ミーティングを開催し、利用者の状況やケアの内容、行事について等、活発な意見交換が行われている。職員全員が納得がいくように話し合い、それらの意見や提案は幹部会議に挙げ、出来ることから反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の査定を行い、施設長との年2回の面談を行っている。各職員が希望や提案が言いやすい場面を提供している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や経験等で区別はしていない。それぞれの職員が得意な能力が発揮でき、他の職員から学んだりできるような環境を提供している。	管理者は、職員一人ひとりの能力や特技を把握し、適材適所に役割分担し、職員が能力を発揮して生き生きと働けるよう配慮している。職員の募集や採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や働く意欲を優先している。採用後は内部や外部の研修参加や資格取得を奨励し、職員が向上心を持って働ける環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	業務中やミーティングで、指導したり改善を行っている。スピーチロックをしない事を日々確認したり、内部研修にて、倫理、コンプライアンス、法令遵守等学んでいる。	利用者の人権を守る介護の在り方を、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者からの声掛けに、業務を優先して後回しにできなかったか、利用者一人ひとりへの声掛けを振り返る等、具体的に利用者の人権を尊重することの難しさを共有し、意識づけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は実施できていないが、内部研修をして本人の能力が発揮できるように努めている。随時ケアマネージャーが介護の知識やケアの実施ができるようにトレーニングしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他の施設との交流はできなかった。サービスの質の低下を防止するために、職員間の話し合いや情報の共有や勉強をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中で話されたことを聞き、家族から情報提供してもらい、本人がしてほしいことや不安を把握して安心できる生活ができる様に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所時に家族の不安や要望を聞き、その後も来所時に相談や情報提供等を共有して信頼できる関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの生活の経緯を伺い、本人と家族が必要としているサービスを主治医と話し合い対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、掃除や調理、片付けなどできる事を手伝ってもらい、一緒に過ごしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話や手紙など、本人や家族が良い関係を継続できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人の方々にはコロナ禍のため、これまでのような面会や協力ができない事を了承してもらっている。	コロナ対策以前は、親戚や友人、知人の面会を歓迎し、ホーム入居後も馴染みの関係が築かれるように支援していた。現在は、面会や馴染みの人との交流、外出等は自粛している。コロナが収束するまでは、利用者がホームの中で楽しく笑顔で過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出やレクリエーション活動、席替えなどで利用者同士のコミュニケーションが出来る様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入所者の家族に許可を頂き面会を実施している。コロナ禍のため、現在は電話連絡してもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に沿うように、家族に情報提供や協力をお願いして本人の意向の把握に努めている。	ホームでの暮らしの中で、職員は利用者の思いや意向の把握に努め、アセスメントに記録して職員間で情報を共有している。意思を表出することが難しい利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の表情や仕草から、思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族より、話を伺っている。入所後も家族や親類から情報の提供をお願いしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録やケアプランをもとに利用者の現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は第一に本人の事で、個人記録や職員の気づいたこと、本人や家族の希望等を反映、検討して作成している。	担当職員は、利用者や家族の意見や要望、心配な事を聴き取り、カンファレンスで検討し、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。モニタリングを毎月実施し、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録をもとにミーティングで話し合いや情報の共有をして、日々のケアの実践や介護計画の見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	色々なサービスを検討しながら、取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問マッサージやデイサービスなど取り入れている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療を行っており、24時間連絡できる体制をとっている。本人や家族の希望により他の病院への受診やかかりつけ医師とも継続している。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決定し、現在は、利用者全員が月2回の往診体制が整っている協力医療機関を主治医とし、医療機関の看護師、併設施設の看護師、介護職員が連携して、24時間利用者の体調管理を行っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時連絡ができる体制をとっているため電話で相談して適切な看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーが、医師やソーシャルワーカーや栄養士と話し合い、早期の退院や健康状態等を検討できる関係を構築している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは入所時に説明しており、重度化した場合は、本人、家族の希望を受け、ケアマネージャーが医師や地域の関係者とチームをくんで、支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した場合や終末期の方針について、ホームで出来る支援、出来ない支援を明確にしながら説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族、主治医と密に話し合い、医療的な措置が必要になるぎりぎりまで利用者が安心してホームで過ごせる支援に取り組んでいる。希望があり、条件が合えば看取りも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で学んでおり、訪問診療の医師や看護師に指導をしてもらっている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防火訓練や災害訓練を実施しており、地域運営推進会議にて報告して、地域の方々の協力を願っている。全職員が対応出来る様に努めている。	避難訓練を年2回実施し、今年度は風水害を想定した訓練も行っている。浸水をしたとの想定での訓練では1階の利用者9名を2階に移動する訓練を実施し、明らかになった課題について話し合い、改善に取り組んでいる。日頃から地域の方への協力をお願いし、非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの利用者の性格や思いを尊重して、言葉かけや対応に注意している。スピーチロックをしないよう、学習している。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を職員間で話し合い、利用者一人ひとりに応じた言葉遣いや対応に注意して取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で本人のお思いや希望を傾聴して、自分自身で決める事ができるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人が自分に合った生活が出来る様に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握してその人らしい身だしなみが出る様に支援している。家族にも協力をお願いしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族から情報を聞き、好みに合った食事を提供している。メニューは職員と利用者で決めている。	利用者一人ひとりの嗜好を把握して、ユニット毎に職員の手作りの料理を提供している。、包丁を持って調理に参加する方、座ってもやしの根取り、いりこの頭取り等、利用者の残存機能に応じて一緒に行っている。行事食や調理レク、おやつレク、デリバリーやテイクアウトを利用する等、食事が楽しめるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量はチェックしており、本人の嗜好や健康状態に合わせて調理に工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後は必ず口腔ケアを実施している。夕食後は義歯を預かり、洗浄している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを作成して、その人に合わせて声掛けやトイレ誘導をしている。夜間はパットのサイズを変えたり、ポータブルトイレを設置したりしている。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミング良く声掛けし、利用者が重度化してもトイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間は、利用者の希望を聴きながらトイレ誘導やポータブルトイレ、オムツやパット等を使い分け、利用者が快適に過ごせる支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や調理方法に工夫をして、摂取しやすいようにしており、水分量のチェックもしている。体操やレクリエーションで、体を動かしてもらっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれの希望に沿うように入浴している。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら、週3回を基本とし、清掃の行き届いた清潔な浴槽に肩までゆっくり浸り、寛いでもらっている。入浴は、利用者職員が一对一で話ができる貴重な時間と捉え、コミュニケーションに努めながら楽しい時間を過ごしている。全身の皮膚の状況等のチェックも行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望で休憩できるように、居室の採光、照明、空調など環境整備をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指導や説明は受けており、服薬の介助や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力や特技に合った役割や、レクリエーションを提供している。生け花や3B体操など取り入れて気分転換をしてもらっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物同行などをしている。外出レクリエーションでも家族や地域の方の協力を得ている。	コロナ禍ではあるが、感染症対策をして人が集まる所を避けながら、出来るだけ外に出られるよう、取り組んでいる。敷地内の桜の木の下でのお花見、車に乗ってのドライブ等、職員がアイデアを出して気分転換を図り、利用者の笑顔に繋げている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望の沿った使い方ができるように、支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に合わせて出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	展示物は毎月変えて季節感を出しており、室温や採光など気を配っている。テレビや音楽の音も不快にならないようにしている。	こまめな清掃や換気に努め、温度や湿度の調整やテレビ、ラジオの音量等に配慮して、利用者が心地よく過ごすことが出来るよう支援している。玄関や廊下、リビングルームは、季節毎の花や飾り物、制作物を掲示して季節を感じる事ができる明るい雰囲気の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は自由に行き来が出来る様にしており、利用者同士でゆっくり会話できるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の好む物や、思い入れのあるものを持ってきてもらい、落ち着いて安心の出来る居室を提供している。	利用者の馴染みの家具や寝具、身の回りの物、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して穏やかに暮らせる環境整備に取り組んでいる。こまめな掃除、換気を行い、気持ち良く過ごせる居室である。畳とフローリングの部屋があり、希望を聞いている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの能力を活かせるように工夫しており、その人らしい生活が出来る様にしている。		